ヤマハマスタークラス　コース概要
2027年度 入会オーディション 要項

ヤマハ音楽振興会　ヤマハ音楽院事務局

ヤマハマスタークラスとは

ヤマハマスタークラスは、特に優れた才能や資質を持つ生徒を対象に、高い目標を達成するために必要な環境と演奏力向上の機会を提供する目的で、M.ロストロポーヴィチ氏の提唱により、1988年に開設されました。
以来、ヴェラ・ゴルノスタエヴァ氏を中心に多彩な音楽家・指導者の指導のもと、国際コンクールの優勝者をはじめ、数多くの音楽家を世に送り出し、社会的にも高い評価を受けてきました。

今日に於いては、めまぐるしい時代の変化や社会情勢に対応した、柔軟性の高い生徒個々の成長を促す指導体制・内容が強く求められており、定期的な実技レッスンはもとより、国内外の著名ピアニスト・音楽家による公開講座や公開レッスンなど、より充実したプログラムで質の高い音楽教育を行っています。

- ヤマハマスタークラス『ピアノ特別コース』が目指すこと
  プロの音楽家になるために必要な研鑽を積み、音楽界で活躍できることを目指します。
  コース在籍中は、国際コンクールジュニア部門のファイナリストに選ばれることをひとつの目標とし、その後は、海外への留学や国際コンクール入賞などを視野に入れ、優れた音楽家として音楽文化発展への寄与を目指します。

2027年度、ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」は若干名の新規生徒を募集いたします。
ヤマハミュージックスクール在籍生に限らず、ヤマハミュージックスクール未経験の方も入会オーディションを受験いただけます。
将来プロの音楽家を目指すことに、意欲・資質がある方は、是非ご応募ください。

ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」　コース概要

期間	毎年、5月~4月の1年間（進級制度あり）
対象	小学校3年生～20歳　（入会時小３～高1※）　※2027年4月2日の学年
レッスン内容	ピアニストとしての資質や将来性のある生徒に対する更に高度で専門的なレッスン

<内容>	<担当>
●ピアノ演奏レッスン 月3回程度（個人）小中学生・90分　高校生以上・120分	ピアノ科講師
●総合音楽レッスン　月3回程度　（個人2回・グループ1回）／各90分	総合音楽科講師
●集中レッスン　年3-4回　(対面・オンラインレッスン)	スーパーバイザー
●特別レッスン(室内楽等)	招聘講師
●定期試験(年2回の実技試験※前期はリサイタル形式／筆記試験)	ピアノ科、総合音楽科
●海外合宿（次回2027年度実施予定）※別途費用が必要	招聘講師
●ピアノコンサート(年1回)　※別途費用が必要	

講師	スーパーバイザー：ラルフ ナットケンパー　／　ピアノ：浦壁信二　鈴村真貴子　吉永哲道　／ 総合音楽科：佐原洸　西尾洋　松下倫士　／　その他、国内外招聘講師
レッスン料金	小学生　50,000円　　中学生　80,000円　　高校生以上～20歳まで　100,000円 ※全て月額・税抜
交通費補助制度	幹線区間(飛行機・新幹線)について交通費補助制度あり ※東京・目黒までのアクセスに際し、飛行機・新幹線を利用する方が対象

ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」 レッスンの様子

日々のレッスン (ピアノ演奏レッスン・総合音楽レッスン)



ヤマハマスタークラスは、ピアノ科(ピアノ実技・個人)の
レッスンと、総合音楽科(ソルフェージュ・音楽教養等)の
レッスンを行います。
ピアノ科、総合音楽科ともに担当講師によるレッスンを
基本とし、全て東京・目黒にて行われます。

ヤマハマスタークラスでは、総合的な音楽教育の観点から、ソルフェージュ、音楽教養のレッスンを並行して学習することにより、そこで培った能力を演奏における創造的な音楽表現に結びつけることを目指します。
総合音楽科のレッスンでは、「目と耳の基礎訓練」でベースとなる力(ソルフェージュ力)を培うと共に、
作曲家や作品の歴史的、社会的な背景、様式感などの音楽教養を学び、音楽家としての表現力の幅を広げます。

集中レッスン

ラルフ・ナットケンパー教授(スーパーバイザー)によるレッスンで、
年に3-4回、対面レッスン、オンラインレッスンにて行います。

【2026年度の実施状況(ご参考)】
- ・春期(オンライン)　2日（2026/6/6-7)
- ・夏期(対面)　7日（2026/7/25-26、8/20-22、9/5-6）
- ・秋期(オンライン)　2日（2026/10/17-18)
- ・冬期(対面)　8日（2026/12、2027/1-2）予定





ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」 レッスンの様子

特別レッスン

年に数回、音楽家としての視野や表現の幅を広げることを目的に招聘教授によるピアノの個人レッスンや、
室内楽のレッスンを行います。



【2026年度の実施状況(ご参考)】
・上原彩子先生(ピアニスト、東京藝術大学音楽学部准教授)
　によるレッスン
・シャルル・リシャール＝アムラン先生(ピアニスト)によるレッスン
・ヤコブ・ロイシュナー先生(デトモルト音楽大学 教授)
　によるレッスン
・漆原啓子先生(ヴァイオリニスト)による室内楽レッスン

定期試験

半年間の成長・今後の課題について、点数と試験官講評を通じ、生徒にフィードバックを行います。※年2回実施
【ピアノ科】
■前期試験　リサイタル形式…小学30分・中学45分・高校80分程度を目安
　自身のピアノリサイタルを想定し、プログラムを組みます。
　プログラムノートやアンコール曲(自作曲やアレンジ曲)も生徒自身で用意します。
■後期試験
【総合音楽科】
■前期試験、後期試験共に、
・聴音(メロディー、二声、四声)　・新曲視唱　・リズム視唱　・楽典　・音楽教養

海外合宿

特別レッスンの目的同様に、招聘教授によるピアノ実技の個人レッスンを、海外にて行います。



【2025年度の実施状況(ご参考)】
・7/21-28　ウィーン　5名参加

※合宿参加にあたっては渡航費用が別途発生します。
※2020～2024年度はコロナ禍等のため実施しておりません。
　次回は2027年度実施を予定しています。

ピアノコンサート

1年間の成果発表の場として、聴衆の前で演奏する機会としてピアノコンサートを実施します。



【近年の実施状況】
・2026/4/12　ヤマハホール
・2025/4/13　ヤマハホール
※コンサート出演にあたっては費用が
　別途発生します。(2026年:3万円)

ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」　スーパーバイザー／講師陣(ピアノ科)



【スーパーバイザー】
ラルフ　ナットケンパー

ラルフ・ナットケンパーは、現代ドイツのピアニズムを伝えるドイツ人ピアニストとして、ヨーロッパで高い評価を受けている。
西ドイツに生まれ、ヴィルヘルム・ケンプ、ファウスト・ザドラ、ヤラ・ベルネット、マックス・マーティン・シュタインに師事。
ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス、スペイン、イタリア、ブルガリア、オーストリア、スイス、ベネズエラ、日本、中国など、欧州を中心に世界各国でリサイタルを行い、ハンブルク、ヴェネツィア、ヴェローナ、ローザンヌ、アッシジ、カラカス、ヴァロニーなどの音楽祭に出演している。ローザンヌ室内管弦楽団、ハンブルク交響楽団、ブルガリア放送交響楽団、ルーマニア国立放送交響楽団などとコンサートを行っている。公演のライブや録音は、テレビ、ラジオなどを通じてヨーロッパ各地で広く紹介されている。ドイツで開催されたブラームス生誕100周年記念式典では、ピアニストとして唯一招待され、ブラームスのピアノ協奏曲第1番を演奏した。ソリストとしては、バロックからメシアンまで幅広いレパートリーを持ち、特にドイツ古典派とロマン派のレパートリーに重点を置いている。室内楽活動にも積極的で、マーク・ルボツキー、レオニード・ペザホフ、深井碩章らと共演している。ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、リストの作品を収録したCDをリリース。
教育者としても、長年にわたりヨーロッパのピアノ教育に貢献している。31歳でハンブルク音楽演劇大学の最年少教授となり、その後、学部長として長年にわたり器楽科を牽引。2011年-15年愛知県立芸術大学客員教授。
ブリュッセル、ソフィア、ローマ、ハンブルク、フランクフルト、ハエン、サンセバスチャン、マドリッド、メッシーナ、カルタニゼッタ、東京、北京など世界各地の国際コンクールで審査員を務める他、弟子たちの多くが、エリザベート王妃国際コンクール、スタインウェイ国際コンクール、フランス国際コンクール、ハエン国際コンクール、エリーズ・マイヤーコンクールなど、世界の主要国際コンクールで1位を獲得。エコー賞など国際的栄誉ある音楽賞の受賞者も多数輩出。現在、ソリストや世界中の大学で教授を務めるなど国際的なキャリアを積んでいる。
パリ国立高等音楽院、マドリード王立高等音楽院、ソフィア国立音楽院、リスボン国立音楽院、ロッテルダム音楽院などヨーロッパの主要音楽院で定期的にマスタークラスを開催。カライドス音楽大学（スイス・チューリッヒ）、イーオン国際音楽アカデミー（韓国・ソウル）、ヤマハ・マスタークラスでも指導を行う。
ベートーヴェン op. 106とop. 120
https://music.apple.com/de/artist/ralf-nattkemper/394267498
ベートーヴェン 作品109,110,111
https://open.spotify.com/album/1zhT199u8anCXhruEqP1hN



【ピアノ科】 浦壁信二

4才の時にヤマハ音楽教室（現ヤマハミュージックスクール）に入会、1981年国連総会議場でのJOC(ジュニア・オリジナル・コンサート)に参加し自作曲を故ロストロポーヴィッチ指揮ワシントンナショナル交響楽団と共演。都立芸術高校音楽科を経て1987年パリ国立高等音楽院に留学。和声・フーガ・伴奏科で1等賞、対位法で2等賞を得る。 1994年オルレアン20世紀音楽ピアノコンクールで特別賞ブランシュ・ セルヴァを得て優勝。室内楽・伴奏において国内外の多くのアーティストとの共演を果たす一方、CD「水の戯れ～ラヴェルピアノ作品全集1」「クープランの墓～ラヴェルピアノ作品全集2」ではレコード芸術誌の 特選、準特選を得るなど好評を得た。現在、洗足学園音楽大学客員教授、東京音楽大学特任教授、ヤマハマスタークラス講師。



【ピアノ科】 鈴村　真貴子

愛知県立明和高等学校音楽科を経て東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修士課程を首席で修了。クロイツァー賞を受賞。2011年同大学院博士課程を修了し、「F.プーランクのピアノ作品演奏法」に関する論文と演奏で博士号を取得。大学院在学中に文化庁や明治安田文化財団の海外音楽研修生としてパリ・エコール・ノルマル音楽院へ留学。コンサーティストディプロムを取得。マルセイユ地方音楽院特別国際マスタークラスでも研鑽を積んだ。
2003年KOBE国際学生ピアノコンクール最優秀賞、2004年ヨーロレジョン国際ピアノコンクール（フランス）第1位など、国内外のコンクールで入賞。また、2006年に名古屋で開催したデビューリサイタルでは「第1回名古屋音楽ペンクラブ賞」を受賞するなど、その豊かな表現力と知的な音楽アプローチは高く評価されている。
これまでに、西典代、中沖玲子、岡本愛子、角野裕、エリック・ベルショ、ブルーノ・リグットの各氏に師事。現在、明和高等学校音楽科、日本大学藝術学部音楽学科、桐朋学園短期芸術大学、名古屋音楽大学、名古屋芸術大学、東京藝術大学非常勤講師。パリ・エコールノルマル音楽院ピアノ科アシスタント。ヤマハマスタークラス講師。

ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」講師陣(ピアノ科・総合音楽科)



【ピアノ科】 吉永　哲道

1978年愛知県生まれ。4歳からヤマハ音楽教室（現ヤマハミュージックスクール）にてピアノを始め、ヤマハマスタークラスを経てモスクワ国立音楽院へ留学、同音楽院本科を卒業、大学院課程を修了。本科卒業時には、成績優秀者として抜擢され音楽院大ホールにて行われた卒業演奏会に出演した。2008年、第14回アンドラ国際ピアノコンクールにて第5位及び特別賞（スペイン人作曲家作品最優秀演奏賞）を受賞。
これまでに、田中須美子、内藤江美、江口文子、國谷尊之、浦壁信二、ピャトラス・ゲヌーシャス、マクシム・フィリッポフ、ダリヤ・ペトローヴァ、故ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、大野眞嗣各氏に師事。ロシアのピアニズムを徹底的に学んだ演奏は、『静寂の水面に滴る水のように、彼の音は波紋を広げる。それでいてどんなフォルティシモでも、ピアニシモが聴こえてくる』とも評され、多くの専門家から高い評価を得ている。
ヤマハマスタークラス講師、洗足学園音楽大学非常勤講師、桐朋学園大学大学院嘱託演奏員。愛知ロシア音楽研究会会員。
オフィシャルウェブサイト《 https://www.tetsumichi.jp/ 》



【総合音楽科】 佐原　洸

作曲、電子音響デザイン（エレクトロニクス）。東京音楽大学、東京藝術大学大学院、パリ国立高等音楽院（CNSMDP）第一課程、第二課程の作曲専攻を経て、2019年度フランス国立音響音楽研究所（IRCAM）作曲研究員。第29回現音作曲新人賞富樫賞受賞。第82回日本音楽コンクール入選。作品はEnsemble Intercontemporain、アール・レスピラン、Ensemble IJ Spaceなどの団体によってアジア、ヨーロッパ各国で演奏される。仏BabelScoresより作品の一部が出版されている。DICT Agency所属。在仏時より器楽と電子音響のために書かれた作品における電子音響パートの演奏活動を開始。これまでに約130の器楽と電子音響のための作品の演奏に携わる。SPAC-E、kasane、Metamor、プラットフォーム各メンバー。同志社女子大学准教授、ヤマハマスタークラス講師、洗足学園音楽大学非常勤講師。

オフィシャルウェブサイト https://kosahara.com/



【総合音楽科】 西尾　洋

1977年生まれ。ヤマハ音楽教室（現ヤマハミュージックスクール）でピアノと作曲を学ぶ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校作曲専攻を経て同大学作曲科中退。リューベック音楽大学大学院作曲専攻を最高点で修了。在独中に北ドイツ放送局ラジオで《雲容烟態》を放送初演、日本スイス国交樹立150周年記念作品《阿吽III》をバーゼルで初演。ヴァイオリン曲《阿吽》およびチェロ曲《阿吽II》ではフレーズと形式の関係に、室内楽曲《はれ》では音列と形式に焦点を当てて現代音楽作曲の可能性を考察した。教育的なピアノ曲や管弦楽版の社歌作曲も行う。東京藝術大学大学院准教授（ソルフェージュ）。愛知県立明和高校音楽科、名古屋芸術大学および同大学院非常勤講師。ヤマハマスタークラス講師。ヤマハピアノグレード諮問委員および5～2級試験官。全日本ピアノ指導者協会指導者育成委員。日本ソルフェージュ研究協議会理事。著書に『応用楽典　楽譜の向こう側』、『鍵盤和声　和声の練習帖』、『上田晴子のライヴ・レッスン！』（共著）。室内楽作品、論文、楽譜解説、雑誌連載等多数。



【総合音楽科】 松下　倫士

東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、2009年同大学院修士課程作曲専攻修了。卒業時に藝大同声会賞受賞。2014年東京音楽大学大学院修士課程伴奏科修了。
これまでに日本交響楽振興財団第29回作曲賞、第5回北本ピアノコンクール最優秀賞、第22回宝塚ベガ音楽コンクールピアノ部門第2位。奏楽堂日本歌曲コンクール第19回作曲部門(一般部門) 入選、第51回JBA下谷賞など多数受賞。
作曲家として、アンサンブルや吹奏楽作品が全国各地で演奏され、楽譜やCDの出版も多数。近年は器楽のみならず声楽や合唱曲、またアレンジにも携わっている。ピアニストとしては2012年に日本コロムビアより「僕が僕であるために～尾崎豊 オンピアノ」(編曲・演奏) をリリース。ソロだけではなく数多くの演奏家と共演も多く、高い信頼と評価を得ている。
洗足学園音楽大学、東京音楽大学非常勤講師。ヤマハマスタークラス講師。

ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」講師陣／海外招聘講師

海外招聘講師（近年レッスン実施分）

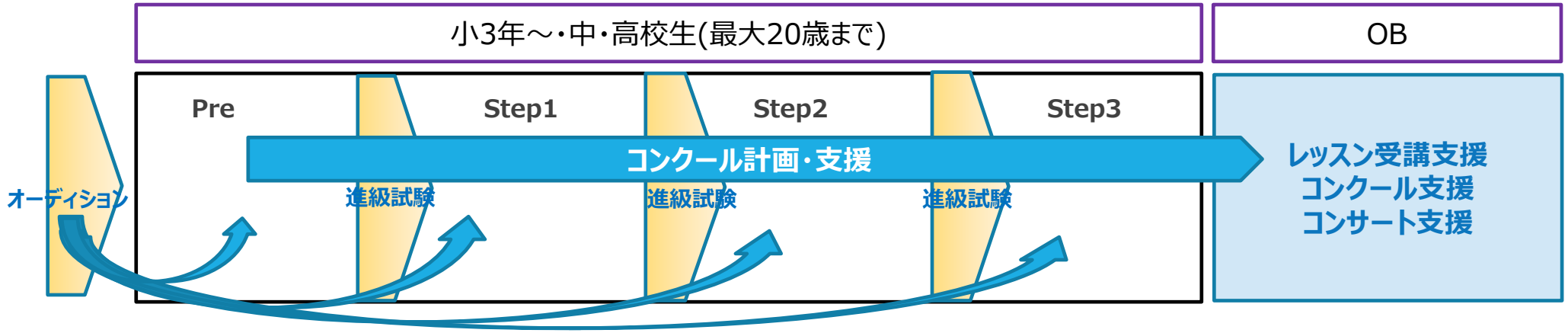
パスカル・ドゥヴァイヨン（英国王立音楽院客員教授）
ヤコブ・ロイシュナー（デットモルト音楽大学）
ヴィレム・ブロンズ（アムステルダム音楽院）
ヤン・イラチェック・フォン・アルニン（ウィーン国立音楽大学）
ローランド・クリューガー（ハノーファー音楽大学）
ミヒャエル・シェーファー（ミュンヘン音楽大学）
ブルーノ・リグット（エコールノルマル音楽院教授）
シャルル・リシャール＝アムラン（ピアニスト）　他







ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」について



＜ピアノ特別コース＞
コース在籍中、国際コンクールジュニア部門のファイナリストに選ばれることを目指します。
在籍は、小学・中学・高校で、原則20歳までとします。

<u>新規入会は、小学3年生～高校1年生となります。</u>
（2027年度の新規募集は、2027年4月2日現在の学年となります。）

【入会時のステップの目安】
・小3～小6は、Pre以上に、入会
・中1～高1は、Step1以上に、入会
※オーディション結果により、Stepを決定します。

コース修了後、海外で研鑽を積み(留学)、国際コンクール入賞ができることを目指します。

マスタークラス修了後も、特別レッスン受講の機会や、コンクール、コンサート支援等、様々な支援を行ってまいります。

ピアノ実技レッスン　ステップにおける目標について

ステップ	目標	コンクール目標	ステップで必ず経験すべき作品	作品(作曲家）例
Pre 目安: 小3～ 小6	演奏家に 必要な 技術・ 表現力の 習得	コンクール目標なし	・バロックの作品 ※特に対位法で書かれた作品 ・古典派のソナチネ・ソナタ ・練習曲 ・ロマン派、近現代の小品	J・S・バッハ インヴェンション シンフォニア 組曲など クレメンティ、ハイドン、モーツァルト、 ベートーヴェンなど ツェルニー クラーマー＝ビューローなど スケール・カデンツ シューマン、ショパン、メンデルスゾーン、 グリーグ、ドビュッシー、バルトークなど
Step 1 目安: 中1～ 中2	演奏家に 必要な 技術・ 表現力の 習得	コンクール目標なし	・バロックの作品 ※特に対位法で書かれた作品 ・古典派のソナタ ・演奏会用練習曲 ・ロマン派の作品 ※小品だけではなく15分程度の作品も含む ・近現代の作品	J・S・バッハ　平均律、組曲など ハイドン、モーツァルト、　ベートーヴェン　など ショパン、リスト　など シューマン、グリーグ、ショパン、リストなど ドビュッシー、ラヴェルなど
Step 2 目安: 中3～ 高1		・オルベテッロ国際コンクール （ジュニア部門） ・ピアノタレンツ国際コンクール （C,D部門）　などの海外の中規模コンクール		
Step 3 目安: 高2～ 20歳	リサイタルが 開催できる 演奏力の 習得	・ジーナバックアウワー国際コンクール （ヤング部門） ・エトリンゲン国際青少年ピアノコンクール などの著名な海外のコンクール	・必ず経験すべき作品は定めない。 リサイタルを実施できるようなプログラムを準備し、演奏できること ※自身の強みを聴衆にアピールできるプログラムを自身で構築すること ・アンサンブルや協奏曲も自身のレパートリーに入っていること	

総合音楽科レッスンについて

◆総合音楽科のレッスンで目指すこと

・作品の構成、ハーモニー等の音楽理論を理解し、ピアノ実技のレッスンをスムーズに受講できることを目指します。
・自身のリサイタル等で自身の言葉で作品解説ができる事を目指します。また自身のリサイタルのプログラムに、
自作曲・編曲作品等を組み込む事ができ、協奏曲のカデンツァ程度の作曲ができることを目指します。
・ここで培った能力を、音楽表現につなげます。（作品の解釈と、作曲家が作品にこめた意図の理解）

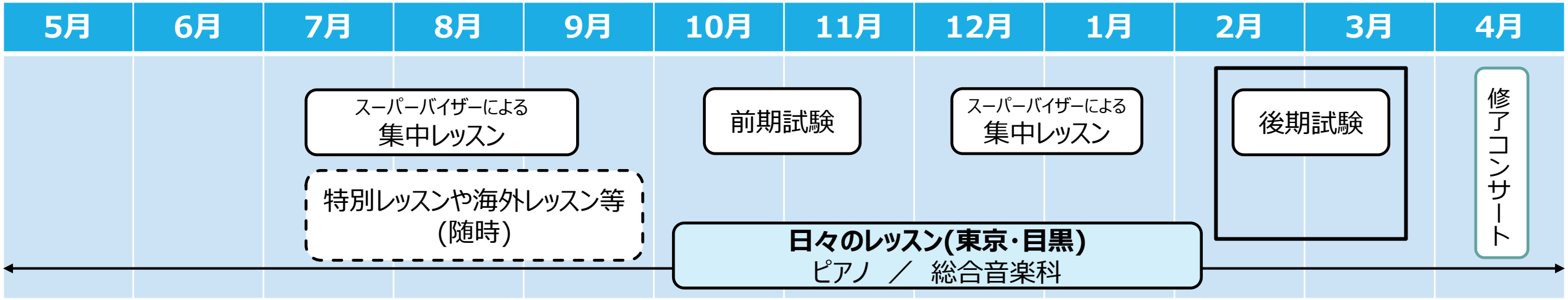
◆総合音楽科の位置づけ「音楽表現(演奏)につながる、総合音楽力の育成」 ⇒ 2領域・5項目

【実技】　項目	読譜	リズム	視唱	聴音	鍵盤
ソルフェージュ領域	各音部記号による素読、歌唱(クレ読み)	各拍子による素読、リズム打ち	各調性、各音部記号による初見、視唱(単旋律、伴奏付き)	メロディー 二声 四声	初見演奏 移調奏 スコアリーディング

【理論】　項目	楽典	楽曲分析	音楽史	和声法	創作
音楽知識・教養領域	基礎的な音楽理論の理解	各形式、作曲家の理解と解釈	時代背景・様式の理解と解釈	和声進行の書法の理解	小品の創作

「ピアノ特別コース」 年間スケジュール

ステップ　1年目



ステップ　2年目



上記以外に、スーパーバイザーによるオンラインレッスンを実施します。

ヤマハマスタークラスの主なOB、OG

上原　彩子
（うえはら　あやこ）



↑ ヤマハマスタークラス
卒業生からのメッセージ

3歳児のコースからヤマハ音楽教室に、1990年よりヤマハマスタークラスに在籍。ヴェラ･ゴルノスタエヴァ、江口文子、浦壁信二各氏に師事。第3回エトリンゲン国際青少年ピアノコンクールA部門第1位を始め多くのコンクールで入賞を果たす。2002年6月には、第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第一位を獲得。
　第１８回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。
これまでに国内外にて演奏活動を行い、2004年12月にはデュトワ指揮NHK交響楽団と共演し、2004年度ベスト･ソリストに選ばれた。ＣＤはＥＭＩクラシックスから３枚がワールドワイドで発売された他、キングレコードより「上原彩子のくるみ割り人形」「ラフマニノフ １３の前奏曲」「上原彩子のモーツァルト＆チャイコフスキー」「デビュー20周年記念コンサート･ライヴ盤」がリリースされている。
2006年1月10日には「日本におけるロシア文化フェスティバル2006」オープニング･ガラコンサートでゲルギエフ指揮マリンスキー管弦楽団と共演、また、2008年9-10月にはクリスチャン･ヤルヴィ指揮ウィーントーンキュンストラー管弦楽団とのオーストリア及び日本ツアーを行ない、2017年3月には、ベルリン及び日本国内４都市において、エリアフ･インバル指揮ベルリン･コンツェルトハウス管弦楽団と共演、高い評価を受けた。2024年からベートーヴェンのピアノ･ソナタ全曲公演にも取り組んでいる。
東京藝術大学音楽学部准教授。令和4年度文化庁長官表彰受賞。

三浦 友理枝
（みうら　ゆりえ）

← ヤマハマスタークラス
卒業生からのメッセージ



1981年東京生まれ。3歳よりヤマハ音楽教室（現ヤマハミュージックスクール）に入会、1993年よりヤマハマスタークラスに在籍。江口文子、ヴェラ･ゴルノスタエヴァ、浦壁信二各氏に師事。05年英国王立音楽院大学課程を首席で卒業。07年同音楽院･修士課程を首席で修了。クリストファー･エルトン氏に師事。
95年「第3回ゲッティンゲン国際ショパンコンクール」第1位受賞。これを機にドイツなどでコンサート活動を開始。99年「第3回マリエンバート国際ショパンコンクール」最年少で第1位受賞。01年「第47回マリア･カナルス国際音楽コンクール」ピアノ部門第1位、および金メダル、最年少ファイナリスト賞、カルロス･セブロ特別メダル賞を受賞。06年9月には「第15回リーズ国際ピアノコンクール」にて特別賞を受賞した。
02年ロンドン･ソロイスツ室内オーケストラとの共演でロンドンデビュー。04年には国際ショパン協会ウィーン本部の招きでリサイタルを行いウィーンデビュー。同年、ロンドン･ソロイスツ室内オーケストラと再共演。これまでに、東京フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ･フィルハーモニック管弦楽団、群馬交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団、京都市交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団、シンフォニア･ヴァルソヴィア、ロンドン･ソロイスツ室内オーケストラ、カイロ交響楽団など国内外の主要オーケストラと多数共演。10年東京オペラシティ主催のリサイタルシリーズB→Cに出演、15年にはフィリアホールにおいて「ラヴェルピアノ作品全曲演奏会」を行うなど注目を浴び続けている。また「ラ･フォル･ジュルネ」、「東京･春･音楽祭」、「仙台クラシックフェスティバル」等の音楽祭にも数多く招かれている。室内楽の分野でも幅広く活躍しており、オランダ人ヴァオリニスト、シモーネ･ラムスマとはエルガーのCDをリリース（NAXOS）、イギリス、オランダ等でコンサート･ツアーも行った。また、09年川久保賜紀（ヴァイオリン）、遠藤真理（チェロ）とピアノ･トリオを、15年にはソリスト達で構成される木管アンサンブル「東京六人組」を結成するなど積極的な活動を展開している。
「名曲リサイタル」「ベスト オブ クラシック」「クラシック倶楽部」「みんなのショパン」「きらクラ!」などテレビ、ラジオの出演も数多く、10年にはFM仙台のクラシック番組で1年間パーソナリティを務めた。
05年、エイベックス･クラシックスよりCDデビュー、14年4月発売の5枚目のソロアルバム『ミニアチュアーズ』のほか、05年『印象』、07年『エチュード』、09年『ピアノ協奏曲ト長調 ラヴェル:ピアノ作品集』、同年川久保賜紀、遠藤真理のトリオによる『RAVEL』、10年『ショパン:24のプレリュード』をリリースしている。
「ショパン:24のプレリュード」「ミニアチュアーズ」は「レコード芸術」（音楽之友社）で特選盤に選ばれている。2016年、第26回新日鉄住金音楽賞〈フレッシュアーティスト賞〉を受賞した。

ヤマハマスタークラスの主なOB、OG　/　主な受賞・活動歴

小林　海都
（こばやし　かいと）

↑ ヤマハマスタークラス
卒業生からのメッセージ



1995年、神奈川県横浜市生まれ。
2021年9月にイギリスで行われたリーズ国際ピアノコンクールにて46年ぶりに日本人歴代最高位の第2位及びヤルタ・メニューイン賞(最優秀室内楽演奏賞)を受賞。更に2024年第12回浜松国際ピアノコンクールにて第3位受賞。その他ドイツのエトリンゲン国際青少年ピアノコンクールのカテゴリーB(20歳以下の部)にて歴代最年少優勝及びハイドン賞、ポルトガルのサンタ・チェチーリア国際ピアノコンクールにて第3位、東京音楽コンクール第2位、松方ホール音楽賞などの受賞歴を持つ。高校在学中に日本で行われたマリア・ジョアン・ピリス氏のワークショップにおいて留学を強く勧められ、高校卒業後に渡欧。ベルギーのエリザベート王妃音楽院にてピリス氏に師事。同氏の若手育成プロジェクトの一員としてイタリア、モロッコ、日本でのコンサートツアーを行った他、ポルトガルのベルガイシュ村での収録にも携わった。またオーギュスタン・デュメイ氏とも共演を重ねるなど、室内楽にも積極的に取り組んでいる。NHK交響楽団をはじめ国内のオーケストラ、さらには海外でもベルギー国立管弦楽団、バーゼル交響楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団など多数のオーケストラと共演。2022年12月には、東京・紀尾井ホール、ロンドン・ウィグモアホールにて、本格的なリサイタルデビューを飾った。中学生よりヤマハマスタークラス特別コースに在籍し、上野学園高等学校音楽科演奏家コースを特待生として卒業。エリザベート王妃音楽院での2年間の在籍を経て、バーゼル音楽院にて、学士課程、修士課程演奏科、修士課程ソリスト科を修め、2023年卒業。同時に最優秀修士リサイタル演奏に贈られるBrambilla賞を受賞。
これまでにピアノをマリア・ジョアン・ピリス、湯口美和、故ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、横山幸雄、田部京子、クラウディオ・マルティネス＝メーナーの各氏に師事。
2014年・2015年ロームミュージックファンデーション奨学生。江副記念リクルート財団第45・48回生。

ヤマハマスタークラス生徒の主な受賞・活動歴

2026年	第3回ウィーン国際ピアノコンクール カテゴリー4（16～23歳）：第5位（太田朝日）
2024年	第9回ヤマハジュニアピアノコンクール C部門（満12歳以下）：第1位（正木克橙）
2023年	第24回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 中学生部門：金賞およびソリスト賞(太田朝日)
2022年	第23回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 中学生部門：金賞（萩原麻理子）
2020年	第17回エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール（ドイツ） カテゴリーA：15才以下の部 ヤングタレント特別賞受賞（萩原麻理子）
2019年	第4回ヤマハジュニアピアノコンクール C部門（満12歳以下）：第1位（萩原麻理子）
2018年	「第34回かながわ音楽コンクール」ユースピアノ部門本選 県知事賞及び高校生部門最優秀賞 第1位 （島村崇弘）
2010年	ウィーンにて「ヤマハマスタークラス ピアノコンサート」実施 第12回エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール（ドイツ） カテゴリーB：20才以下の部 第1位およびハイドン賞 受賞（小林海都）
2009年	「第25回かながわ音楽コンクール」ユースピアノ部門本選 県知事賞及びDの部（中学1,2年）第1位 （小林海都） 第63回全日本学生音楽コンクール全国大会 ピアノ部門中学校の部 第3位 （小林海都）
2008年	ウィーンにて「ヤマハマスタークラスピアノコンサート」実施 第62回全日本学生音楽コンクール全国大会 ピアノ部門高校の部 第1位（内匠 慧）
2006年	第7回ダブリン国際ピアノコンクール（アイルランド） 第5位（須藤梨菜） 第11回台北青少年国際ショパンピアノコンクール（台湾） 第2位（八木康徳） 第10回エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール（ドイツ） カテゴリーB：20才以下の部 第1位およびEMCY賞受賞（尾崎有飛） 第8回ヨーロッパショパンピアノコンクール（ドイツ） 第5位（菊地美涼）
2005年	ハンブルグ・トリビューネホールにて「ヤマハマスタークラスピアノコンサート」実施 第3回東京音楽コンクール ピアノ部門第1位および審査員大賞受賞（北村朋幹） 第5回カール・ツェルニー国際ピアノコンクール（チェコ）カテゴリーII：14才以上の部 第1位（菊地美涼） 第14回エンニオ・ポリーノ国際ピアノコンクール（イタリア） 第1位（後藤正孝）
2004年	第9回エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール（ドイツ） カテゴリーB：20才以下の部 第3位（安田英主） カテゴリーA：15才以下の部 第5位（北村朋幹）
2003年	英国王立音楽院デュークホールにて「ヤマハマスタークラスサマーコンサート」実施 第5回浜松国際ピアノコンクール 第4位（須藤梨菜）
2002年	第6回ウラジミール・クライネフ青少年国際ピアノコンクール（ウクライナ） ジュニアの部 グランプリおよびクラシック作品最優秀演奏賞受賞（安田英主） 第12回チャイコフスキー国際コンクール（ロシア）ピアノ部門 第1位（上原彩子） 第8回エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール（ドイツ） カテゴリーA：15才以下の部 第1位およびベーレンライターピアノ原典版賞受賞（菊地美涼） 第19回ポルト市国際音楽コンクール（ポルトガル） 第1位および最年少ファイナリスト賞、現代曲最優秀演奏賞受賞（泉ゆりの）
2001年	第47回マリア・カナルス国際音楽コンクール（スペイン）ピアノ部門 第1位および金メダル、最年少ファイナリスト（三浦友理枝）

ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」 入会オーディション　要項

2027年度、ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」は若干名の新規生徒を募集いたします。
ヤマハミュージックスクール在籍生に限らず、
ヤマハミュージックスクール未経験の方も入会オーディションを受験いただけます
将来プロの音楽家を目指すことに、意欲・資質がある方は、是非ご応募ください。

対象	2027年4月2日現在、小学校3年生以上～高校1年生以下で、東京・目黒のヤマハ音楽振興会に通える方。 ※現時点でのヤマハミュージックスクール在籍は問いません。 将来プロの音楽家として活躍することを目指し、海外留学や国際コンクールに参加する意志がある方。 マスタークラスが提供するレッスンを受講し、所定のカリキュラムに基づく定期試験をクリアーすると共に、 マスタークラスの指導・運営方針にご協力いただける方。
入会 オーディション	◆1次選考(映像審査)　2次選考(ピアノ実技審査・面接・ソルフェージュ)の2段階選考を行います。 ・1次選考:　2027年1月12日(火)　締切　～　2月上旬に結果を通知します ⇒　申し込み：　2026年12月10日(木)より、WEBの申込サイトより申し込みいただきます。 ・2次選考:　2027年3月14日（日）実施※　～　4月上旬に結果を通知します ※2次選考の実施時間については、後日ご案内します。 ★2次選考に進まれた方は、現講師の推薦書を提出いただきます。※フォームは問いません。
次年度以降の 継続条件	所定の試験(年2回の定期試験)、もしくは、進級オーディションに合格すること。

ヤマハマスタークラス「ピアノ特別コース」 オーディション内容

	オーディション時　小学3年～6年	オーディション時　中学1年～高校1年
1次選考	■映像審査 下記の【演奏カテゴリ】の映像を提出すること 【演奏カテゴリ】 ・J・S・バッハ：インベンション or シンフォニア1曲 ・古典派のソナチネ or ソナタより1つの楽章(緩徐楽章は除く) (ハイドン、クレメンティ、モーツァルト、ベートーヴェンなど) ・任意の自由曲1～2曲 ◆演奏時間の合計は、10分を目安とする。 ※2026年1月～2027年1月12日の演奏であること ※過去のコンクール、演奏会で演奏したものでも良い	■映像審査 下記の【演奏カテゴリ】の映像を提出すること 【演奏カテゴリ】 ・バロックの作品1曲 ・古典派のソナタより1つの楽章(緩徐楽章は除く) (ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど) ・任意の自由曲1～2曲 ◆演奏時間の合計は、15分を目安とする。 ※2026年1月～2027年1月12日の演奏であること ※過去のコンクール、演奏会で演奏したものでも良い
2次選考	■ピアノ実技審査 上記【演奏カテゴリ】より、2～3曲を演奏すること ・演奏時間の合計は、10分を目安とする ・1次選考で演奏した作品と重複も可 ※曲目は1次応募時に提出の事。 但し曲目を変更する際には別途定める締切日までに申し出ること。 ■ソルフェージュ (経験値の確認) ・ヤマハ音楽能力検定Bコース ピアノ7～6級程度※の 『初見演奏』『聴奏』 ※参考:ヤマハ音楽能力検定ピアノ演奏グレード10～6級 受験要項 ⇒ P.20-21およびP42-47を参照ください。 ■面接	■ピアノ実技審査 上記【演奏カテゴリ】より、2～3曲を演奏すること ・演奏時間の合計は、15分を目安とする ・1次選考で演奏した作品と重複も可 ※曲目は1次応募時に提出の事。 但し曲目を変更する際には別途定める締切日までに申し出ること。 ■ソルフェージュ ・ピアノ演奏グレード5級程度の『初見演奏(16小節程度)』 ・『書き取り聴音(メロディー8小節程度)』 ■面接

エントリー方法

【A】『オーディション申込』はWEBにてエントリーいただきます。

お申し込みは こちら

お申込み期間：2026年12月10日(木)～2027年1月12日（火）

Webエントリーフォーム

QRコードからもアクセス頂けます ⇒

【B】映像の応募(1次選考)　映像の送付方法は、下記の方法となります。

◆ YouTube 応募 … Web エントリーフォームに YouTube の URL を記載。
・3 曲を別々の URL でも、まとめてでも、どちらでも構いません。
・タイトルにエントリーNo.と氏名を明記してください。
・応募者ご本人とヤマハマスタークラス事務局だけが閲覧できるよう「限定公開」としてください。

・万一、応募者ご本人とヤマハマスタークラス事務局以外が閲覧できる状況となった場合でも、ヤマハ音楽振興会は一切責任を負いません。
・著作物や肖像、商標、商号など、他者が権利を有するものを応募に使う場合は、権利者から事前に許諾を得た上で応募してください。
なお、楽曲については YouTube の利用規約やガイドラインを事前にご確認の上、遵守ください。
・万一、応募動画に関し、第三者より、著作権、著作隣接権、肖像権その他一切の権利に関する侵害の苦情・申し立てがなされた場合には、
応募者の責任と負担で解決するものとし、ヤマハ音楽振興会の他、本応募関係者に対し何ら迷惑をかけないものとします。

ヤマハマスタークラスについて、お問い合わせ先

ヤマハ音楽振興会　音楽普及部　音楽普及グループ

ヤマハ音楽院事務局　ヤマハマスタークラス ピアノ特別コース係

〒153-8666　東京都目黒区下目黒3-24-22　TEL.03-5773-0820

お問い合わせはこちら

お問い合わせフォームにリンクします　↑

※お問い合わせ種別欄を「ヤマハ音楽院」にしてください。